

S&Uだより

safety & useful 発行 No333

2025年8月10日

(株) マルジン

福井 TEL 0778-27-7200 FAX0778-27-7201

名古屋 TEL 0586-81-1895 FAX0586-81-1896

新潟 TEL 0258-94-5772 FAX0258-94-5773

福島 TEL024-983-3970 FAX024-983-3971

2025年の日本列島は例年にない高温傾向が続いています。特に西日本では6月下旬から梅雨明けが進み、平年よりも約1週間早い梅雨明けが異例となりました。これにより、7月上旬には強い日差しとともに本格的な暑さが到来、急激に気温が上昇する日が増えていきます。関東や東日本も7月中旬の梅雨明けとなりましたが、全国的に暑さのスタートが早まる形です。6月7月とほとんど雨が降らず灼熱の暑さだった北陸は「梅雨入り」と言われても???

でしたし、いったい梅雨はどこにいていつ明けるのでしょうか?といった感じでした。

北海道でも夏の始まりが例年より早く、札幌など道内各地で初夏から高温注意報が発令されています。西日本の場合、梅雨明け後の気温上昇が非常に急激になりやすい傾向があるため、熱中症や電力需給にも注意が必要だとのこと。2025年の夏の本格的なピークは7月下旬から8月中旬と見られています。特に7月末～8月前半は全国的に40℃近い記録的な高温の日が続く予想です。過去と比較しても、今年の真夏日(日最高気温30℃以上)、猛暑日(35℃以上)、熱帯夜(25℃以上)の発生回数は増加する見込みです。都市部では夜間も気温が下がりにくく、寝苦しい日が増加します。通常、8月下旬から徐々に最高気温が下がりはじめますが、2025年は高温傾向の継続が見込まれており、真夏日の終息が遅れる予測です。東日本や西日本では例年以上に猛暑が長引くおそれがあります。9月上旬まで気温の高い日が続くため、残暑に対する警戒も必要です。今年は、北海道でも9月に入ってから暑い日が続く予想が出ており、地域差を十分考慮した対策が必要とされています。毎日の天気予報や気象情報の確認を欠かさず、その都度適切な行動を心がけることが、安全に夏を乗り切るポイントでしょう。

地球温暖化の進行に伴い、日本の夏の平均気温も年々上昇しているとのこと。過去30年のデータを見ると、特に都市部では夏の最高気温が上がり、熱帯夜の日数が増加しています。2025年の夏も例年と比べて暑さが顕著になる見込みだとのこと。この違いが、住む場所や働く環境によって体感する暑さに大きな差をもたらしています。都市に住む方は、冷却グッズや日よけの工夫、エアコンの適切な利用が欠かせません。地方でも猛暑日が増えることから、油断せず常に最新の気象情報に目を向けておく必要があります。イライラや不安感、うつ症状の悪化を招く場合もあります。夏バテによる意欲低下や集中力の低下だけでなく、注意力の散漫から交通事故や労働災害など社会的な事故増加傾向も指摘されています。猛暑と並行して発生する大雨や豪雨にも注意が必要です。特に近年は、局地的な豪雨による土砂災害や洪水のリスクが増加しています。気温が高いと大気中の水分量が増えやすく、短時間での激しい降雨が発生する恐れがあります。また、下記のような二次被害にも警戒が求められます。2025年の夏は全国的に平年より気温が高くなると気象庁や日本気象協会が予測しています。1℃でも大きな上昇ですが、今年は3℃から4℃の平均気温の上昇となりそうで、これから日本の夏は熱帯地域ようになっていくのでしょうか?最新の長期予報によると、6月から8月にかけて高温が続くやす状態が予想されています。特に梅雨明け以降は太平洋高気圧が強まり、猛暑が広がる見込みです。北海道でも例年より高温傾向が顕著で、札幌などを含めた北日本でも蒸し暑さが続くと言われています。この傾向はラニーニャ現象や地球温暖化の影響が複合的に作用しているためと専門家も指摘しています。北欧フィンランド「サンタクロース村」で30℃となり、40℃超えが続出の中国山東省では、卵を置いていたキッチンで、まさかの事態が。女性が自宅を2日間、留守にしている間に、キッチンに置いていた卵から、なんと90個の卵から70羽のヒヨコが孵化したそうです。まあ、スーパーなどで売られている卵はほとんどが無精卵ですから、どんな気温でも孵化したりはしないので...真実なのかどうかは疑問ですが...

2025年に本格的に涼しくなるのは、10月下旬から11月上旬頃と予想されています。特に残暑が厳しく、9月中旬でも気温が25℃を超える地域が多い見込みだそうです。こうなると本当に「四季ではなく二季」だと観念しなければならぬのかもしれませんが。残暑も厳しく、9月前半まで暑さが続く可能性がありますので、何が夏の暑さか?どこが残暑なのか?もう改めて気にしないようにしなければ、やってられない毎日です。動物も、作物も、私たちのような現場作業の仕事も、暑さとう向き合っていけばいいのか?大きな課題と言えるでしょう。

マルジン 8月のカレンダー

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

<～お盆休みのお知らせ～>

8月13日(水)～
8月17日(日)まで
18日より通常営業させていただきます。
御仕事のご依頼も目白押し!!
ご依頼は、お早目をお願いいたします。
8月12日(火)は営業いたしております。

500k タイプ+ 運転台車

本機の下バンパーが破損しているようだ、分岐のかえりも気になる

本機5台の下バンパー確認するも問題なしだったが先頭車両運転台車の下バンパーが破損していたため、下バンパー交換 分岐返り確認し、気になった起点分岐の交換をして 試走等実施「原因は不明ですが レールの低い部分に転石が入り込んで乗用台車のバンパーと接触したのではないかな？」との説明と「モノレール走行時 常に進行方向に障害物がないか確認をしていただきたい」とお願いしました。マルジンも 施工の際に後で支障が出そうな 転石、倒木等を除去しておくよう会社でも周知します。

首振り500kタイプ+ 5人乗用台車

走行時エンジンが止まった

連絡を受け すぐに現場に伺う。ルート上で止まっており、始動確認したところ一発でエンジンがかかり 走行も問題なかった。原因不明のため 一応点検で 振り子動作確認、キャブレター、カップ清掃、プラグ交換等実施して、試走後引き渡しさせていただきました。その後問題が無いようで 推測するに「燃料の水の混入」が考えられるので 燃料携行缶塔からの給油の際 水の混入に注意していただきたい旨 お伝えしました。

300kタイプ+ 運転台車

SOSの連絡は なかったですが・・・

撤去に伺った際分岐で大きく傾くことに気が付き、分岐に乗り上げた形跡が有り 分岐ぼるとネジを締めるプレートも破断寸前になっていた。他の分岐も確認したところ 全てネジが指で簡単に回る倉鹿野仕舞っていなかった。それにより中レールが傾き乗り上げたと思われます。「分岐ねじの手締めの可能性高」分岐ネジの締め込みは 安全対策の要の一つです。お客様に 破損の写真もお送りし 施主様 使用者に意識していただくことをお伝えし 有償とさせていただきます。マルジンも 立会時（本来は引渡し時に）使用者が参加されるのであれば「分岐レールが外れたら 命にかかわること等もお伝えし 注意喚起を行っていきます。

500k タイプ+ 運転台車

現場における二回目の運転講習の際に・・・

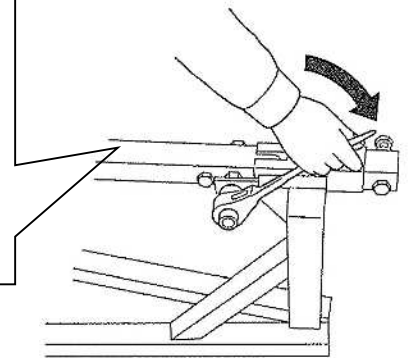
作業されている方より「分岐でガタンと傾くので見てほしい」と言われたので 講習後に分岐を確認すると、分岐と前後のレールで乗り上げた形跡有りレールのバリもひどく 分岐、前後レール等準備して翌日修理に伺うことにしました。レールや台車ローラーも交換し 試走して終了。原因としては 分岐ネジ手締めの可能性高、作業員

を含め 現場が休みで担当者も不在のため 修理の完了と 使用上の注意をお送りしました。

「分岐自体は傾いておらず 中レールだけが傾いていたのでネジ締めをしっかりとしないで走行し乗り上げたと思えます。他の分岐も手で回せるぐらいしかネジが締まっていなかったの で 脱線事故の可能性もあるため しっかりと増し締めをしていただきたい」とお伝えしました。

**重大事故
危険有り！**

しっかり締める



分岐の取り外しレールのネジを締めず走行ラック破損

これは ともすれば大事故につながりかねないうっかりです。レールを「ちょん乗せ」でモノレールを走らせ 振動でレールが浮き 本機ごと落下したという事例もあります。乗用モノレールであれば人が乗っているわけですから機械と共に落下されるともかぎりません。夏の暑さで 注意力が散漫になる事もあろうかと思えます。厳重に注意を促し 当社も お貸し出し時には、口うるさく思われようと安全作業を幾重にもお願いしていこうと思えます

300kタイプ+ 荷物台車

ローラーの隙間が広いのかカーブのところで乗り上げてしまう（バネローラー使用の現場）

カーブのところでバネローラーのAローラーの浮き上がりを確認、カーブ2ヶ所のレールが少々菱形に変形、ラック横が削れていたため 点検試走で異音が出ていた。新しいバネローラーに交換して試走してみたが 1カ所の急カーブでまだAローラーが浮き上がる事象がみられた。

担当者とは相談し カーブの曲りの軽減をお客様に提案し BPから50cmレールが離れることを許可をもらったうえで再施工、バネローラーをT-3ローラーに変更、試走し 浮き上がり事象が無いのを確認し お引き渡ししました。

敷設の面積が限られている事で 近づけるポイントに合わせると どうしてもカーブがきつくなるので 振動が減る等 バネローラーの利点はあるものの きついカーブが多い現場ではT-3ローラーを選択の方が良いのでは？

今後 新しい方法を利用する時には 状況を見てベストな選択をしていかなければいけないと思います。